

平成31年3月12日

足立区立舎人第一小学校
校長 相原和子 様

足立区立舎人第一小学校 開かれた学校づくり協議会
会長 坂井 伴 好

平成31年度 学校関係者評価書

1 自己評価書全般について

舎人第一小学校は、今年度「基礎学力の定着と学力の向上」を中心に「健やかな体の育成」「豊かな心の育成」「幼・保・小・中連携」を加えた4つ重点的な取り組みを掲げ、教育活動を行ってきた。「基礎学力の定着と学力の向上」については、どの学年も目標値を上回ることができた。これは、若手教員が多い中、学力向上に向け、校内研究や小中連携を中心に組織的に取り組むとともに、教師の授業力向上と指導方法の工夫改善に努めた成果の表れである。

また、全児童・保護者を対象とした学校生活に関するアンケートについて、集計結果を数値化し、分析し学校経営に反映させたことは評価に値する。今後も引き続き、保護者や地域の期待に応えられるよう、教育活動を充実・発展させていってほしい。

重点的な取り組み事項－1 学力の向上

今年度4月の区の学力調査の通過率は、国語84.1%、算数83.5%であった。29年度は、国語86.0%、算数81.8%であり、特に算数で向上が見られた。つまずきが見られる児童に対して放課後の時間に、基礎学力の定着のために個別指導を行った結果、12月の再調査では、国語が90.3%、算数が89.1%であった。年度当初より、国語では6.2ポイント、算数では5.6ポイント向上した。学年ごとに見ると、低学年が高く高学年が低い傾向にある。前学年までの学習内容の定着と新たに学習した内容の更なる理解を図るため、指導方法や指導内容、また補習体制については、改善を図る必要があると考える。

校内研究で国語科を中心に「対話的で深い学びのある授業づくり」を主題とし研究を進めたことで、12月の再調査で大きくポイントが上がったことは成果である。今後は、国語だけでなく他の教科にも広げてより充実した授業のための取組を期待する。また若手教員が多いが、若手育成に向けた研修会を近隣校と合同で実施するなど、教員の意識醸成、授業改善への取り組みが見られた。さらに習熟度別指導や放課後補習などで、児童の習熟度に応じ児童に寄り添った指導が行われた。「授業がわかる」と回答する児童が91%、「学校の授業は楽しい」と回答する児童が92%であることは評価できる。

重点的な取り組み事項－2 健やかな身体の育成

身体を動かす習慣をつけ、体力向上を図った結果、児童アンケート「毎日30分以上運動を

する」と答えた児童は90%であった。これは学校で縄跳び週間を設け短縄・長縄に取り組みせたりジョギング大会に向けて計画的に取り組んだりした結果である。体力向上は足立区の課題でもある。今度も子供たちの体力向上に向けた計画的継続的な取組を期待する。

健康教育では、むし歯ゼロ運動を全校体制で実施し、昨年度に引き続き全校での給食後の歯磨きの実施、低学年でのむし歯についての保健センター等外部機関と連携した指導の実施など、積極的に取り組んでいる。6月の検診後の通院率が99%と高いのは評価できる。これは家庭との連携が大切であり、引き続き啓発し、これからも全児童のむし歯ゼロに対する取組に期待する。

食育については、栄養士と担任による年間6回の食育指導の他、ランチルームを活用した会食を実施した。また地域の方を講師とし、5年生による米作りや3、4年生の農業体験などを実施した。今後も地域と連携し、活動が継続・発展するよう期待する。

重点的な取り組み事項－3 豊かな心の育成

年度末、全児童に実施した「学校生活アンケート」で「学校は楽しい」と答えた児童は92%であった。「児童は楽しく充実した学校生活を送っている」と答えた保護者は94%であり学校が児童にとって安心できる場であることは評価できる。しかし「困った時に相談できる先生はいますか」の問いに「はい」と答えた児童が86%であり、今後学校として児童に寄り添った支援相談体制の構築を期待する。

相手を思いやる心の育成については、校長講話や道徳授業の充実など、計画的・継続的に指導することができていた。パラアスリートとの交流も豊かな心の育成に効果的であった。またいじめ防止アンケートやハートボックスによる、いじめの早期発見、早期対応も機能していた。

児童の異学年交流「たけのこ班活動」は休み時間などに年間12回実施した。異校種間交流は本年度も活発に行われ、成果を上げている。日常的に上級生が下級生の面倒を見ることが定着していることは高く評価できる。

重点的な取り組み事項－4 幼・保・小・中連携

幼稚園、保育園と小学校の連携として、職員同士の交流会や小学校の職員が保育園の様子を参観に行く活動は、小学校の教員が新1年生を受け入れるために効果的だと考える。また、幼児を学校に招待して、交流をして一緒に給食を食べる活動は、1年生にとって、相手を思いやる心の育成や、次年度の関わりにつながっている。さらに、中学校の授業を体験する活動は、中学校に対する具体的なイメージを6年生にもたせるよい機会となった。幼保小の連携については、今後も積極的に推進してほしい。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

農業体験や相撲部屋での稽古など、地域人材を活用した体験的な学習活動は、児童の健全育成に大きな効果をもたらしている。今後も協力を得ながら、継続していきたい。また「町ぐるみ自転車教室」「PTAふれあいマーケット」「フェスタとねいち」「春を呼ぶコンサート」など、PTAや地域の行事は、本校の教育活動の特色であり、児童の貴重な体験の場となっている。これからはじめとする地域の方と連携を図りながら、本校の特色ある教育活動を充実・発展させていきたい。